

# 令和3年度「大学の世界展開力強化事業」 ～アジア高等教育共同体（仮称）形成促進～ 公募事業の概要（案）

## 【タイプA】**継続**コンソーシアム（H28展開カタイプA-①,②）

A①：キャンパス・アジアプラス（CAプラス）（※1）プログラム（**推奨**）

A②：キャンパス・アジア（CA）プログラム（※2）

## 【タイプB】**新規**コンソーシアム

B①：CAプラス（※1）プログラム（**推奨**）

B②：CAプログラム（※2）

コンソーシアムの種類	応募可能な形式	採択件数
継続コンソーシアム	CAプラス(A①)	10件程度
	CA(A②)	10件程度 (合計)
新規コンソーシアム	CAプラス(B①)	
	CA(B②)	

※1 対象となる国・地域

**中国**及び**韓国**のほか、対象となるアジアの国・地域については、**中韓と協議中**。

※2 **第1・2モード採択大学**が**CAプログラム**に申請する場合、他大学（第1・2モード採択大学以外）との連携による**国内2大学以上**の構想となっていること。

※本資料には、検討中・調整中の内容が含まれるため、今後、内容を変更する可能性があります。

# 遵守事項①（タイプA・B共通）

- **日中韓3か国が定めたCAまたはCAプラスの基本的な枠組み（※）を踏まえた事業であること。**

※基本的な枠組みの例

- ①参加国：日本、中国及び韓国（CAプラスの対象国・地域は協議中）
- ②レベル：学部レベル、大学院レベル
- ③交流プログラムの概要：分野は問わない。学部レベルでは共通常カリキュラムを基本とした1セメスター以上の交流、大学院レベルではジョイント・ディグリーやダブル・ディグリーを実施する交流が推奨される。
- ④交流期間：3ヶ月以上の交流が推奨される。
- ⑤学生規模：相互利益の原則に基づき、参加国間で学生の派遣数と受入数のバランスをとり学生交流を行う。
- ⑥学生支援：交流に関しては授業料の相互免除を原則行う他、以下の支援を行うことが推奨される。  
なお、奨学金については、1事業につき年間10人の参加学生に対し、支援を行うことが推奨される。（CAプラスの場合、中韓以外のアジアの大学については、財政状況を考慮し、コンソーシアム独自の覚書の締結によって、例外が認められる。）  
（受入国の負担）滞在費（宿舍費）  
（派遣国の負担）奨学金、学生の渡航費
- ⑦質保証：3国の質保証機関による質保証に関する取組を実施する。「日中韓の質の保証を伴った大学間交流に関するガイドライン」を参照する。

※本資料には、検討中・調整中の内容が含まれるため、今後、内容を変更する可能性があります。



MEXT

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

## 遵守事項②（タイプA・B共通）

- C Aプラスが推奨されるが、**第2モードにおけるグッドプラクティス**等を参考に**発展的なプログラム**を提供する限りにおいて、キャンパス・アジアも認められる。
- **コロナ禍が続く限りは、オンラインによる学生交流を推奨**するが、各国の入国制限が緩和された場合、これまでの展開力事業と同様、**実渡航による交流（期間は3ヶ月以上を推奨）を主要なもの**とすること。
- オンラインを活用した教育プログラムの構築にあたっては、設計段階から教育の質の保証の観点に十分に留意し、**当該教育プログラムの到達目標に対して教育効果を客観的に説明**できるものとなっていること。

※本資料には、検討中・調整中の内容が含まれるため、今後、内容を変更する可能性があります。



# 推奨事項①（タイプA・B共通）

- 参加学生は、日本と相手国との2国間交流だけでなく、**すべての連携相手国**の大学で学ぶこと。
- 実渡航による交流（3ヶ月以上を推奨）が本事業の基盤であることに留意しつつ、**実渡航による交流にオンラインを組み合わせたBlended/Hybrid教育プログラム**の構築により、留学の効果を高めること。
- 優秀な外国人材や留学生の獲得と学習成果の可視化を推進するためのインフラとして、**成績証明書類等の電子化**に取り組むこと。

## 遵守・推奨事項②(タイプA)

- **同窓会ネットワークの活用**方法を示した計画となっていること。
- **第2モードまでの成果や実績**を広く社会に対して発信していること。
- 目標設定については、各大学のこれまでの実績（国際交流プログラムの効果及び参加卒業生の進路等）をエビデンスとして、その成果やギャップをもとに設定されることが望ましい。

# 指標設定

## <必須指標>

- ① 交流学生数（派遣・受入別、単位取得の有無や交流期間、学部・大学院別）
- ② 一定の外国語力基準（外部検定試験のスコア等）をクリアする日本人学生数

## <タイプAのみ>

- ③ 同窓会ネットワークに登録・参加する学生数
- ④ 上記①～③以外で、第2モードまでの実績と比較して発展的な内容となっていることを示す指標（例：人材育成目標に照らした指標、国際交流プログラムの効果測定による達成目標指標等）

※本資料には、検討中・調整中の内容が含まれるため、今後、内容を変更する可能性があります。



# 事業規模等

## ◆ 補助期間

最大 **5年間** 2021（令和3）年度～2025（令和7）年度

## ◆ 補助金基準額（1件あたり）

- CAプラスプログラム：**1,580万円**
- CAプログラム：**1,300万円**

→ **2年目以降、予算額全体の10%程度を逡減**させるため、  
補助期間終了後、自立的に事業を継続できる計画とすること



# 申請対象等

## ◆ 対象機関

我が国の国公立大学

## ◆ 申請可能件数

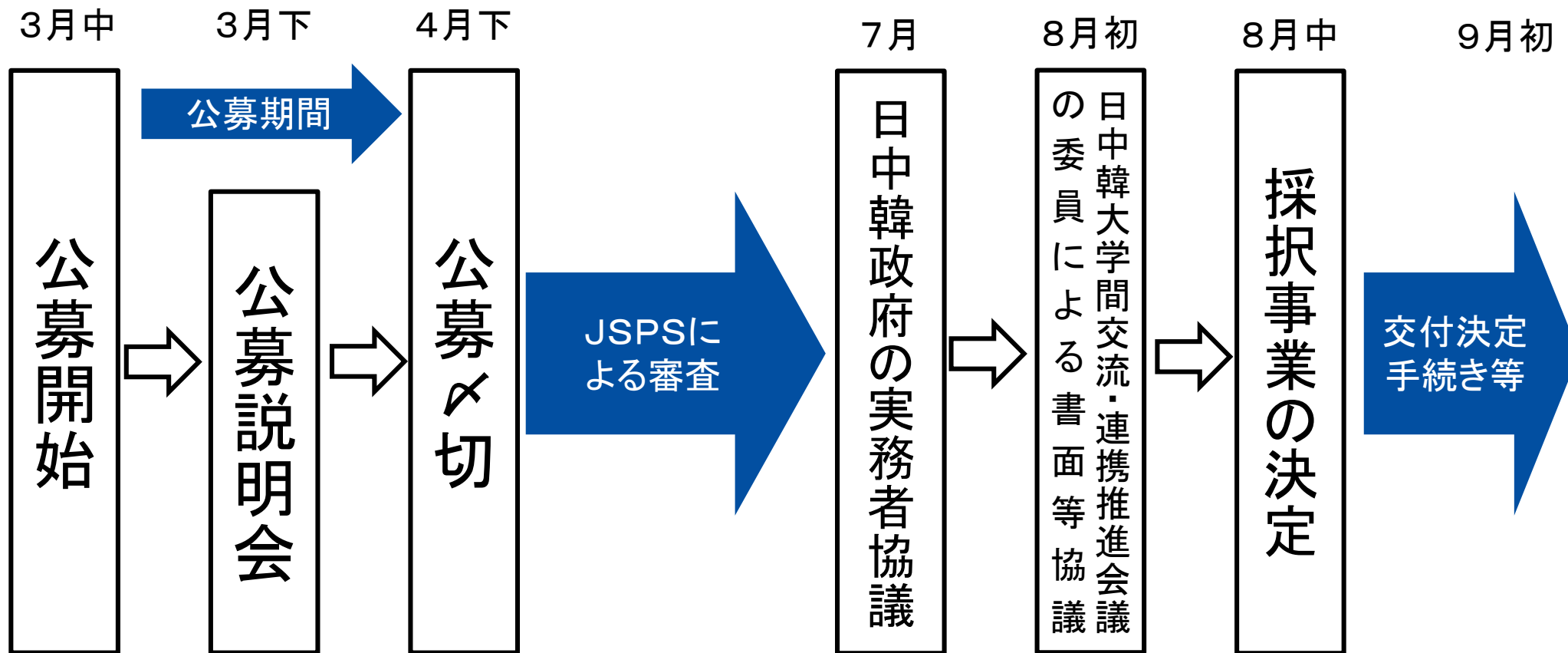
タイプA：各継続コンソーシアムにつき、①か②のいずれか**1件**

タイプB：1大学につき、①か②のいずれか**1件**

※代表大学（または国内連携大学）として申請する場合、他のコンソーシアムの国内連携大学（または代表大学）として申請することはできない。（継続コンソーシアムを除く）

# スケジュール（目安）

## ◆ タイプA・B



※本資料には、検討中・調整中の内容が含まれるため、今後、内容を変更する可能性があります。

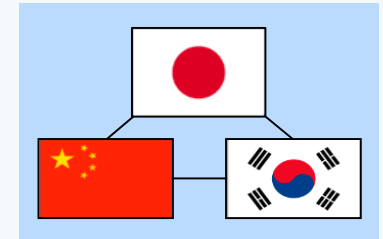
# 【参考】キャンパス・アジアとは

# キャンパス・アジアとは

## キャンパス・アジア (CAMPUS Asia\*)

日中韓の政府・質保証機関・大学が協力して、大学の国際競争力を共に向上させるために質の保証を伴った大学間交流を展開する事業

\*Collective Action for Mobility Program of University Students in Asia

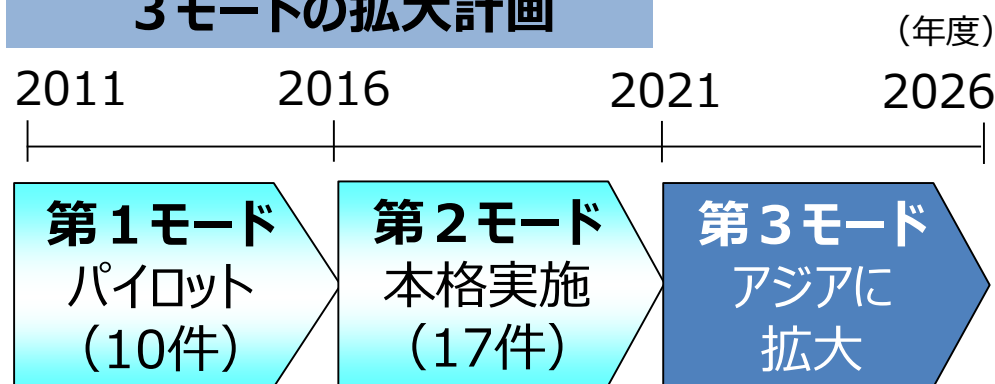


### 日中韓サミット

2009年10月 第2回 (中国・北京)

我が国より、**三国間で質の高い大学間交流**を行うことを提言、合意

### 3モードの拡大計画



### 日中韓大学間交流・連携推進会議

2019年9月 第7回 (日本・東京)

第3モードの枠組について大筋合意



# キャンパス・アジアとは

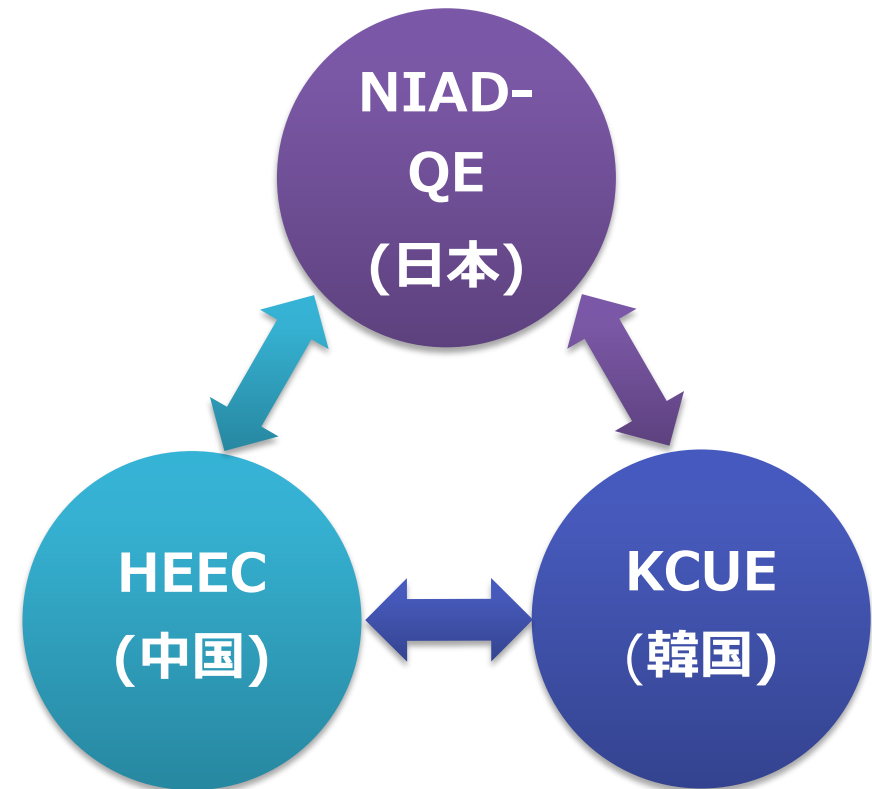
## キャンパス・アジアに関する**共通原則**（第2モード）

項目（例）	内容
コンソーシアム参加の単位とプロセス	<ul style="list-style-type: none"><li>・コンソーシアムは、<b>日中韓の3つ以上の大学</b>で構成</li><li>・コンソーシアムには、学部もしくは大学単位で参加可能</li><li>・参加を希望する場合は、大学を通じてそれぞれの教育省に申請書を提出</li></ul>
交流対象	日中韓の大学における <b>学部生</b> 及び <b>大学院生</b>
交流期間	<ul style="list-style-type: none"><li>・<b>3ヶ月以上</b>を推奨</li><li>・大学院レベルでは、<b>ジョイント・ディグリー</b>や<b>ダブル・ディグリー</b>の推進を推奨</li></ul>
交流学生数	連携大学間の合意に基づき、 <b>バランスのとれた数</b> の学生交流を推奨
言語	各コンソーシアムが自主的に決定
学生への財政的支援	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業料は各々の所属大学に支払い、コンソーシアムを構成する大学間の<b>授業料は相互免除</b></li><li>・航空運賃への支援は自国（学生派遣元の国）が自主的に決定</li><li>・<b>奨学金</b>（宿泊費等のその他の費用を包む）は、<b>学生受入国が支援</b></li><li>・奨学金の額は各国政府が決定</li></ul>



## 日中韓の質保証機関による取組

- キャンパス・アジアのプログラムやカリキュラムの質を保証するため、三国の質保証機関が連携。
- 三国の質保証機関は、共同で**モニタリング**を実施し、共同モニタリング報告書を公表。



※NIAD-QE : 大学改革支援・学位授与機構 (National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education)

※HEEC : 中国教育部高等教育教学評価センター (Higher Education Evaluation Center of The Ministry of Education)

※KCUE : 韓国大学教育協議会 (Korean Council for University Education)

# キャンパス・アジアとは



## キャンパス・アジアの採択プログラム一覧（第2モード）

### （1）パイロットプログラムからの継続

No.	大学名			プログラム名称
	日本	中国	韓国	
1	・東京大学	・北京大学	・ソウル大学校	北京-ソウル-東京（BESETO）ダブル・ディグリー・プログラム：国際・公共政策共同研究
2	・東京工業大学	・清華大学	・韓国科学技術院	日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム
3	・一橋大学	・北京大学	・ソウル大学校	アジア・ビジネスリーダー・プログラムⅡ（アドバンスト）
4	・名古屋大学	・中国人民大学 ・清華大学 ・上海交通大学	・成均館大学校 ・ソウル大学校	東アジア「ユス・コム・ネ」（共通法）形成にむけた法的・政治的認識共同体の人材育成
5	・神戸大学	・復旦大学	・高麗大学校	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム
6	・岡山大学	・吉林大学	・成均館大学校	東アジア高等教育圏を見据えた中核的高度実践人＝アジアクラット育成プログラム
7	・九州大学	・上海交通大学	・釜山大学校	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム－ダブルディグリープログラムの高度化と定着・恒常化－
8	・立命館大学	・広東外語外貿大学	・東西大学校	東アジア人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営移動キャンパス



# キャンパス・アジアとは



## (2) 2016年度からの新規採択

No.	大学名			プログラム名称
	日本	中国	韓国	
1	・千葉大学	・清華大学 ・浙江大學	・延世大学	植物環境イノベーション・プログラム
2	・東京大学	・北京大学	・ソウル大学校	日中韓教養教育アライアンスによる高度教養教育の充実と「協創型人材」の育成
3	・東京学芸大学	・北京師範大学	・ソウル教育大学校	東アジア教員養成国際大学院プログラム
4	・東京藝術大学	・中国伝媒大学	・韓国芸術総合学校	国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-workカリキュラム
5	・東京海洋大学	・上海海洋大学	・韓国海洋大学校	「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム
6	・大阪大学	・北京大学 ・清華大学 ・上海交通大学 ・天津中医薬大学	・延世大学校	世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム
7	・九州大学	・同済大学	・釜山大学校	アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する人材育成のための協働教育プログラム
8	・長崎大学	・山東大学	・成均館大学校	日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業
9	・早稲田大学	・北京大学	・高麗大学校	多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム





# 【キャンパス・アジア】第3モードのスキーム（案）

## 第3モードの方向性

キャンパス・アジアをアジア各国・地域に拡大し、アジア全域で質の保証を伴った大学間交流を活発化させるため、「Asia for All」（仮称）という理念を提唱。「Asia for All」とは、アジア域内の高等教育制度の相違を超えて、国際的通用性を備えた質の高い教育を実現する、アジア地域の共同体という理念である。

## Asia for Allの実現に向けた第3モードの拡大スキーム

### 1. 第3モード展開のための3つの手段

- <手段1> 日中韓3か国で「CAMPUS Asia」のコンソーシアムを形成するという、従来型の継続。
- <手段2> キャンパス・アジアのコンソーシアムに参加する対象を、アジア各国・地域（特にASEAN）に拡大。「CAMPUS Asia Plus」（仮称）と呼称。
- <手段3> ASEANやアジア各国・地域で実施しているプログラムのうち、キャンパス・アジアと同等の質保証の基準を満たすコンソーシアムを対象として拡大。  
※コンソーシアム内の大学への支援（財政的支援を含む）のあり方は、モニタリングの結果等を踏まえて各国が独自に決定。

### 2. 質の保証を伴った交流であることを証明する、Asia for All公認プログラム

- (1) Asia for Allの「認定プログラムの共通基準」を定め、基準をクリアする2か国以上(仮)の大学で形成されたコンソーシアムをAsia for All公認プログラムとして認定。
- (2) Asia for Allに認定されたコンソーシアムには、「Asia for All Badge」を付与。Badgeを獲得した大学は、「Asia for All修了証明書」を学生に発行可能。
- (3) 各国からの拠出金により活動する「Asia for All事務局」（仮称）を創設。  
事務局は、チェックリストを用いたBadge付与の認定及び事後的なモニタリング実施等により、アジア全域の高等教育の質保証を促進。

### 3. 「Asia for All Information Platform」（仮称）の設置

Asia for All事務局のもとに設置。コンソーシアムを組んでいなくても1大学から登録可能。コンソーシアムの立ち上げ・参加のためのマッチングの場として機能。

## 第3モードの拡大スキーム

